

**中期経営計画**

# **Bridge to the Future**

**～未来への架け橋～**

(2016年4月～2018年3月)

2016年5月

**大東紡織株式会社**



# 経営理念

## 「進取の精神」

自ら進んで新しいことを取り込み変化に柔軟に対応する精神

## 「自利利他の心」

自利利他は仏教において「利他の実践がそのまま自分の幸せなのだ」という考え方であり、自利利他の心は、すなわち、世の為人の為に尽くす社会貢献の心

弊社は本年2月27日に皆様のお陰様をもちまして、無事、創立120周年を迎えることが出来ました。1896年の創業以来、初の毛織物の国産化に取り組むなど、長年にわたり尽力して参りました。その創業の使命は、「進取の精神」と「自利利他の心」という経営理念として、120年にわたり脈々と受け継がれ今日に至ります。

今回の中期経営計画の策定にあたっては、「進取の精神」と「自利利他の心」を当社グループ役職員全員が共有し、グループ一丸となって、企業価値向上に傾注することを前提に策定致しました。



## 経営環境

我が国経済は、雇用・所得環境の改善は進んでいるものの政府・日銀の経済・金融政策の効果が出るまで時間を要しており、その間、海外経済の不透明感が高まり、出口が見通しにくい状況であります。事業環境においても、資源安、円安の一服感に加え、消費増税の可能性が残るなど不透明であります。

※このため、今回の中期経営計画は2年間とします。

# 旧中期経営計画の総括

旧中期経営計画期間中の円安進行や消費増税の影響は想定を上回っていたため、特に繊維・アパレル事業における事業環境が厳しいものとなりました。このため、最終年度には、紳士服販売事業からの撤退を柱とする繊維・アパレル事業の構造改革の実施を余儀なくされました。また、ヘルスケア事業においては、原料価格の上昇圧力もあり、苦戦を強いられ伸び悩む結果となりました。

しかしながら、好調な商業施設サントムーン柿田川に支えられるとともに、繊維・アパレル事業の構造改革により業績の下振れ要因がなくなったこともあり、ほぼ修正後の業績予想通りの水準で最終黒字を確保することが出来ました。

また、この結果、目標とする経営指標である「営業利益率6%以上」「自己資本比率20%以上」をいずれもクリアすることができました。 ※営業利益率7.0%、自己資本比率22.6%

## 【最終年度の計画と実績】

(単位:百万円)

	計画 (27.11修正後)	実績	計画比
売上高	5,390	5,407	+17
営業利益	310	378	+68
経常利益	70	74	+4
親会社株主に帰属する 当期純利益	125	124	▲1

# 本計画の基本的な考え方

当社は、昨年度に、繊維・アパレル事業の構造改革を断行し、長年の課題であった同事業の赤字体質からの脱却に目途を付けました。次のステップとして、もう一つの課題であった借入金返済負担の軽減に向けた「財務体質の強化」に着手します。

今回の中期経営計画は、こうした一連の改革を始め様々なチャレンジを推進することにより、「プロパー事業の強固な基盤作り」と「利益の底上げ」を最優先課題とすると共に、株価向上も十分に意識して経営を進めてまいります。

不透明な経営環境下、本計画は次のジャンプアップに向けたいわゆる「未来への架け橋」とも言うべき位置付けとし、計画期間2年の短期集中型の中期経営計画と致しました。

財務体質の強化

プロパー事業の強固な基盤作り

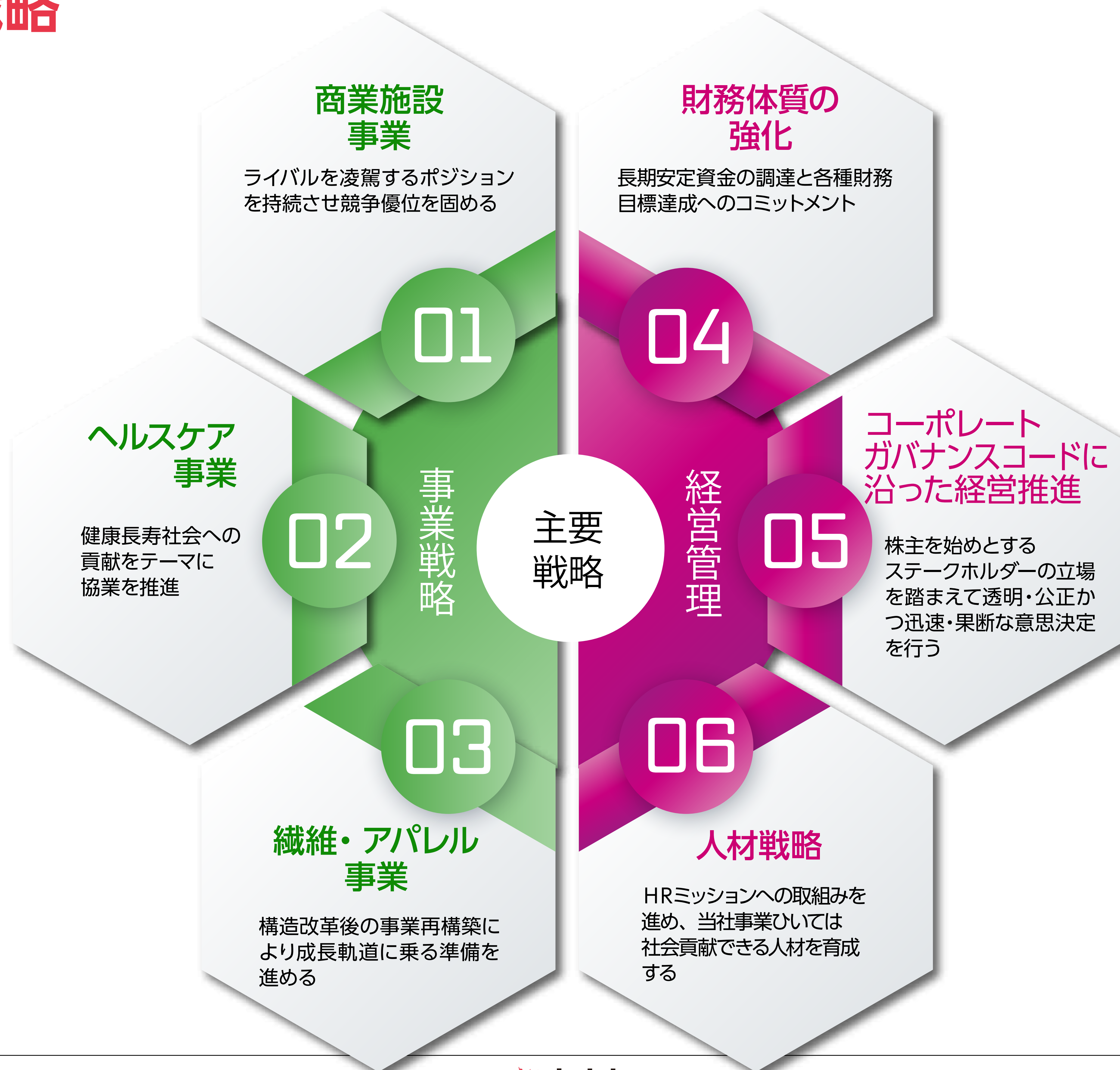
利益の底上げ

未来への架け橋

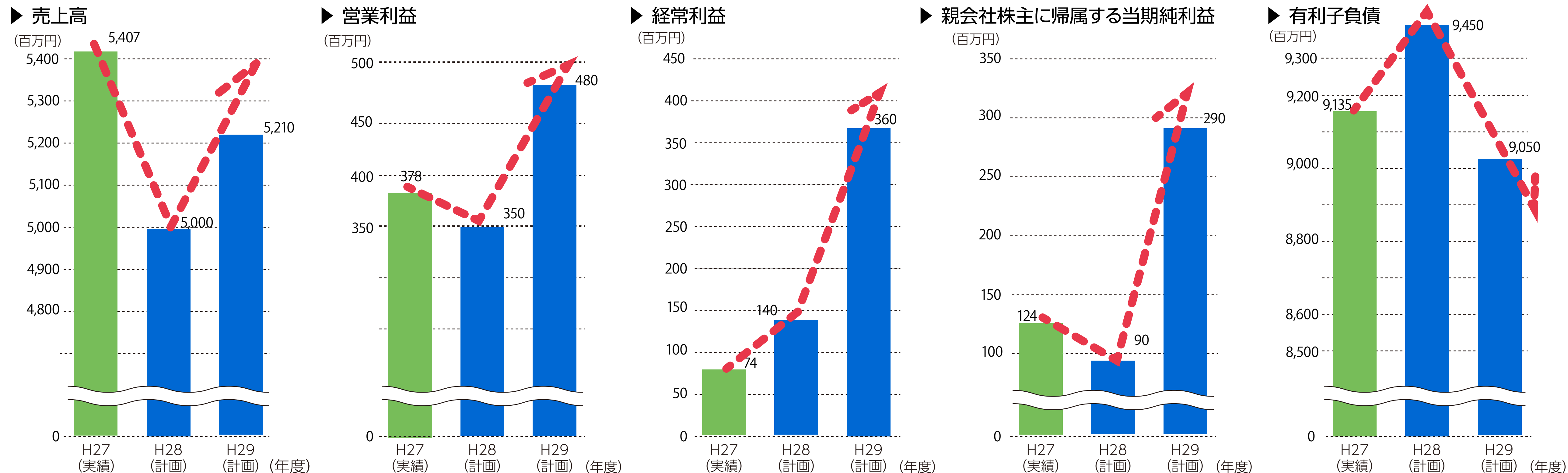
**Bridge to the Future**



# 主要戦略



# 主要な計数計画



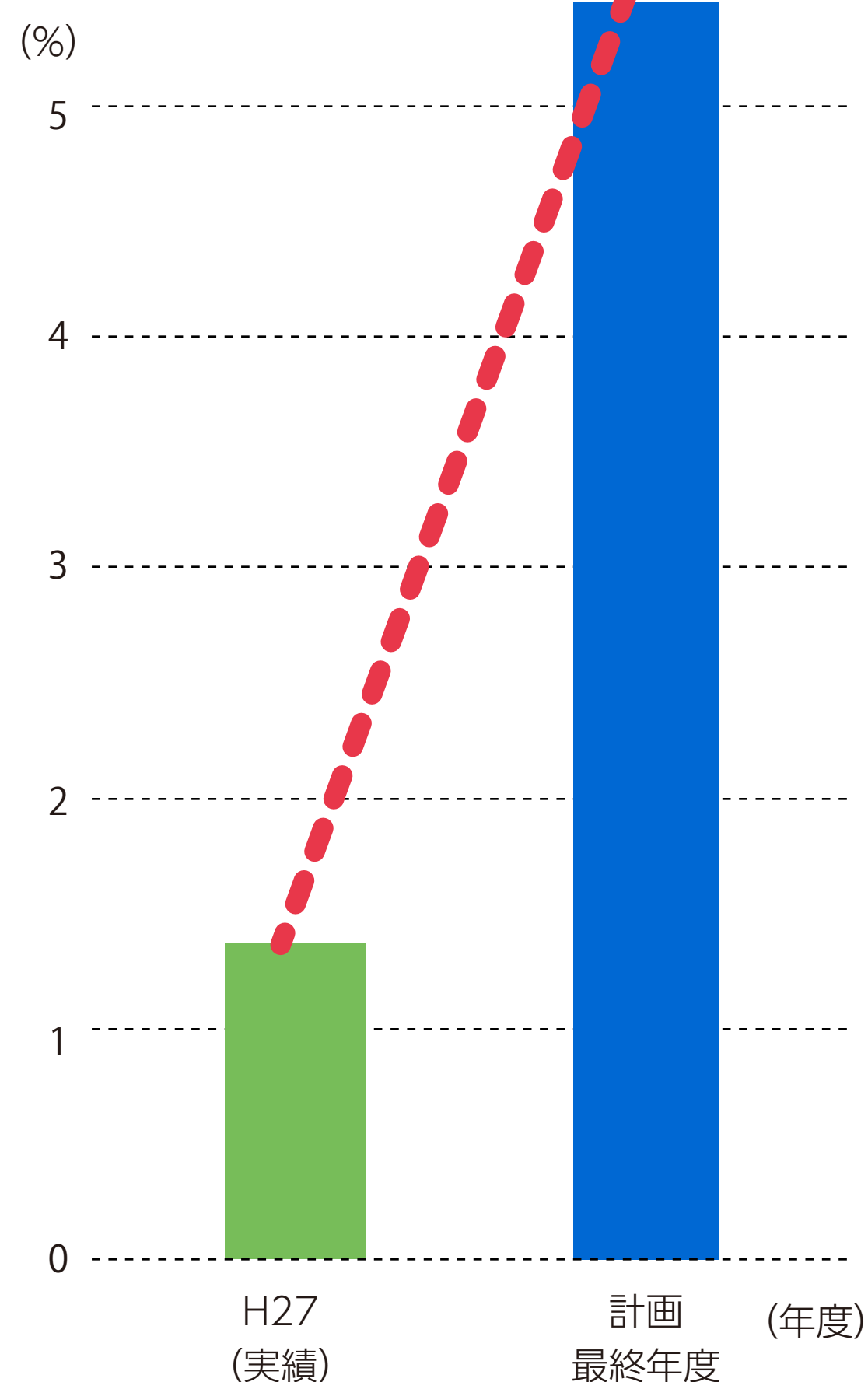
## 【計数計画】

(単位:百万円)

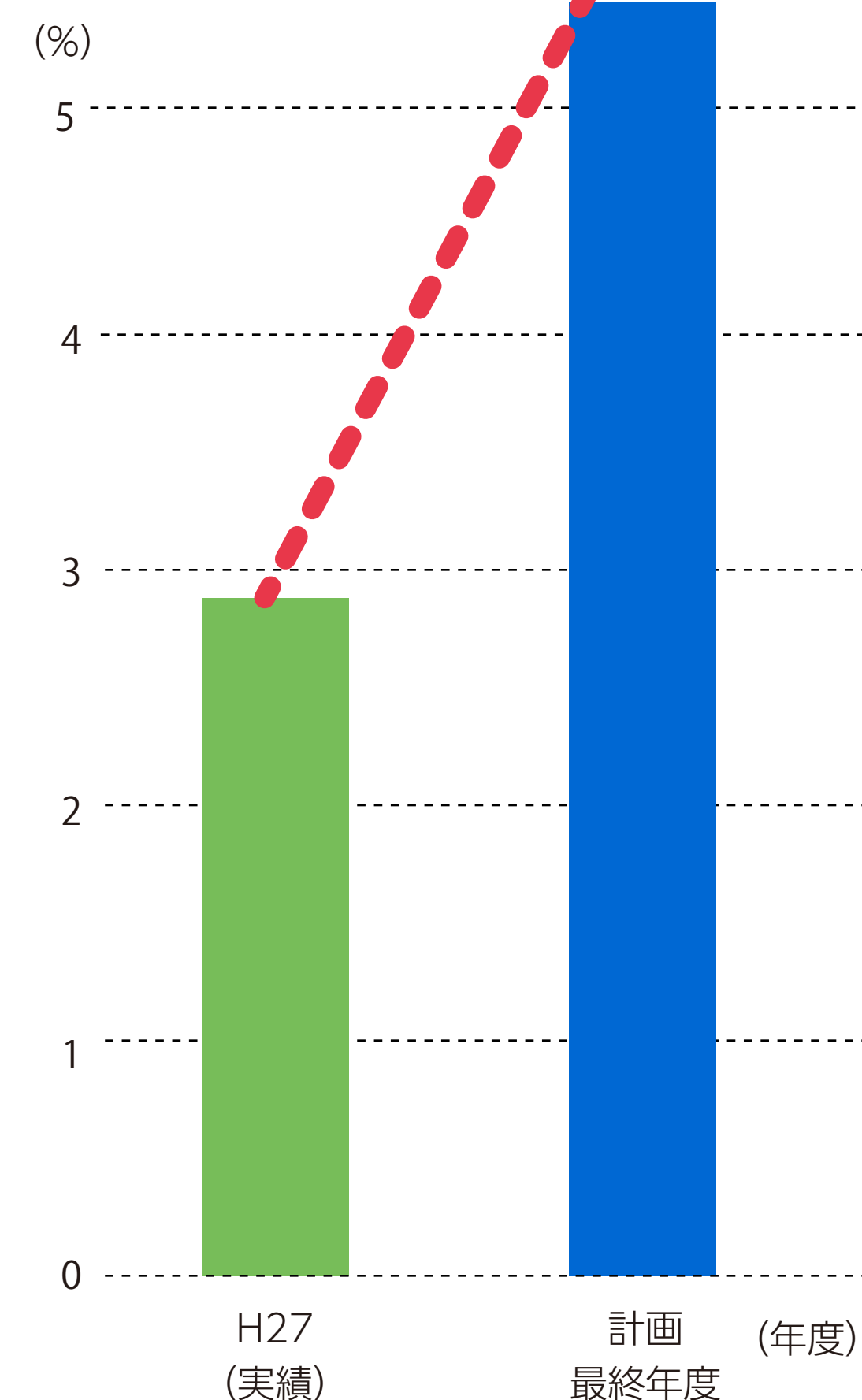
	平成27年度 (実績)	平成28年度 (計画)	平成29年度 (計画)
売上高	5,407	5,000	5,210
営業利益	378	350	480
経常利益	74	140	360
親会社株主に帰属する 当期純利益	124	90	290
有利子負債	9,135	9,450	9,050

# 財務目標

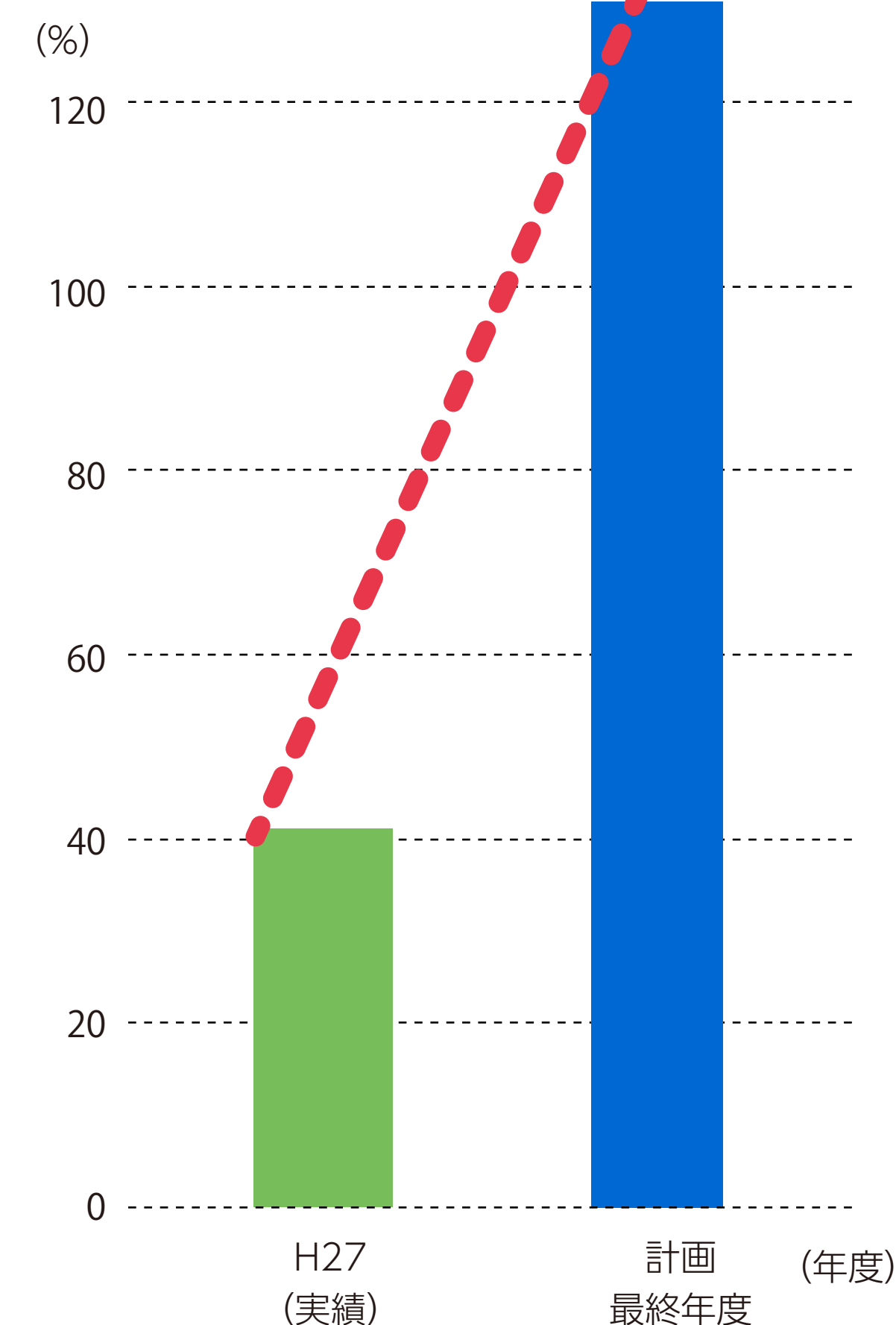
▶ 経常利益率



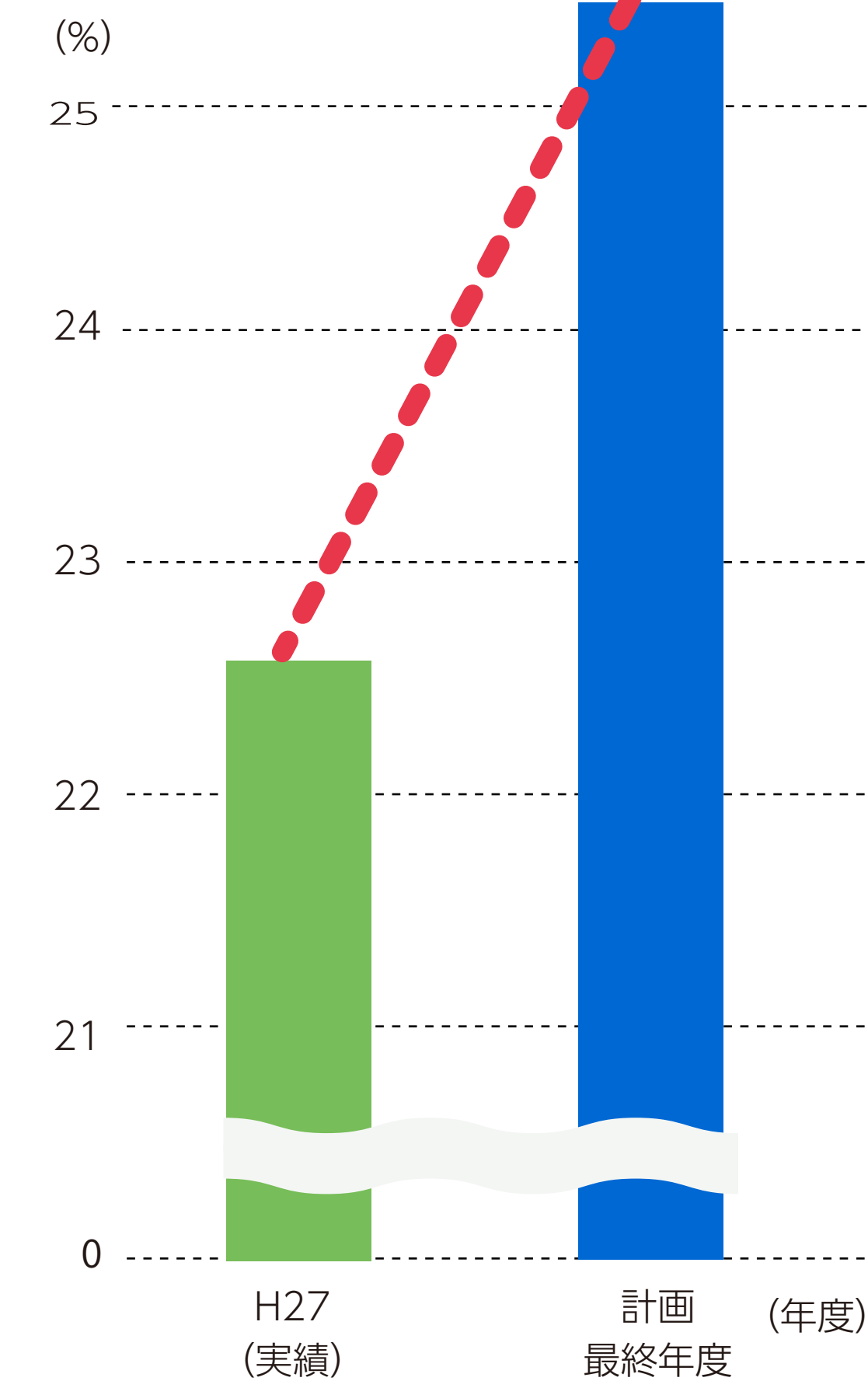
▶ ROE



▶ 流動比率



▶ 自己資本比率



## 【財務目標】

※利益率及び財務内容の安定性を高める観点から、右記の4指標を目標とします。

## 平成27年度実績

## 計画最終年度

経常利益率	1.4%	5%以上
ROE	2.9%	5%以上
流動比率	40.7%	120%以上
自己資本比率	22.6%	25%以上



# 商業施設事業

## 戦略

# ライバルを凌駕するポジションを 持続させ競争優位を固める

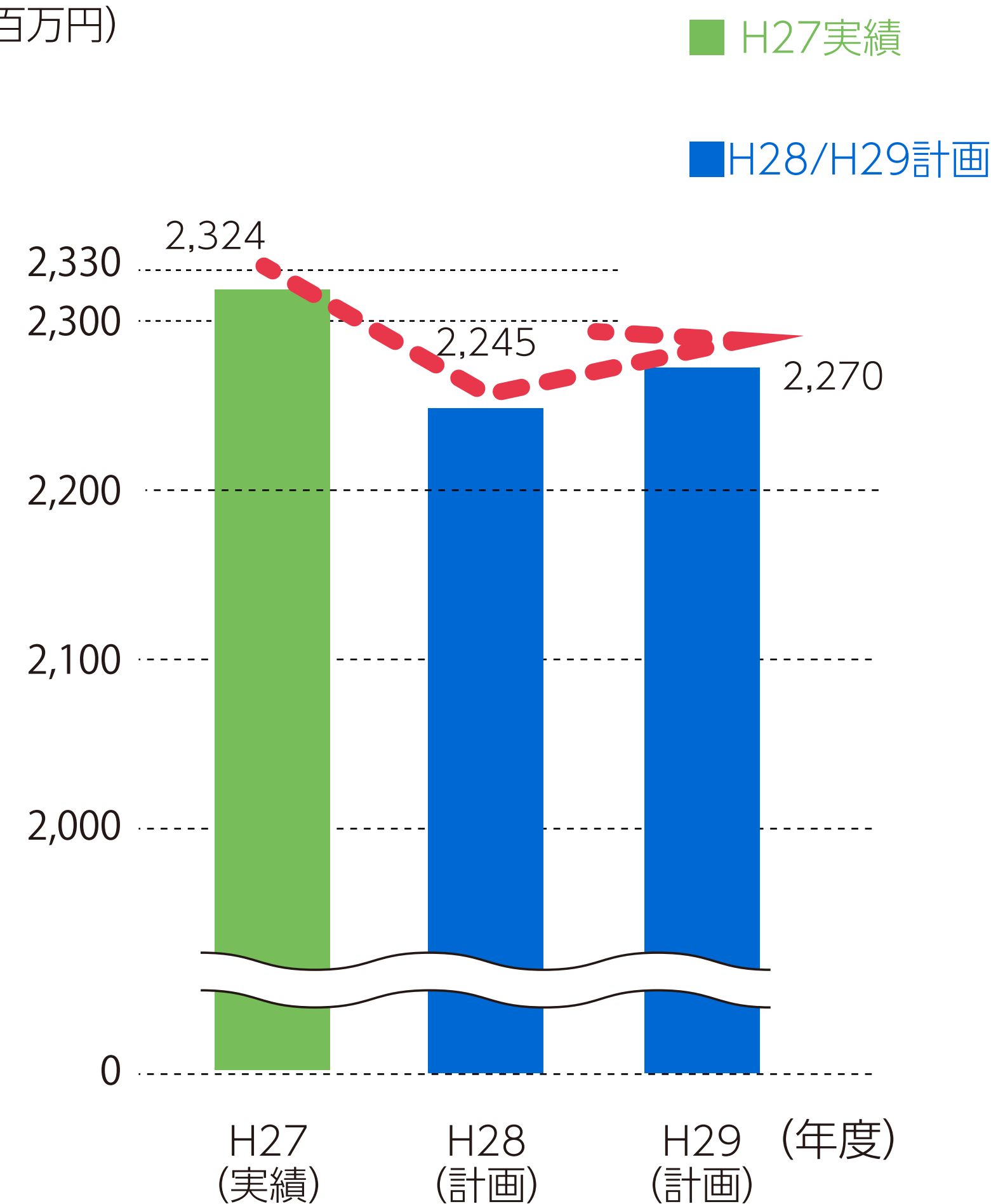
## 具体策

- ① 施設のアトラクティブネスを高める  
施設内回遊性の向上
- ② ファミリー層の誘致  
地元密着の広告宣伝の強化・ファミリー向けイベントの強化
- ③ 事業提携先との連携強化
- ④ 人材のシフト・育成強化

# 商業施設事業

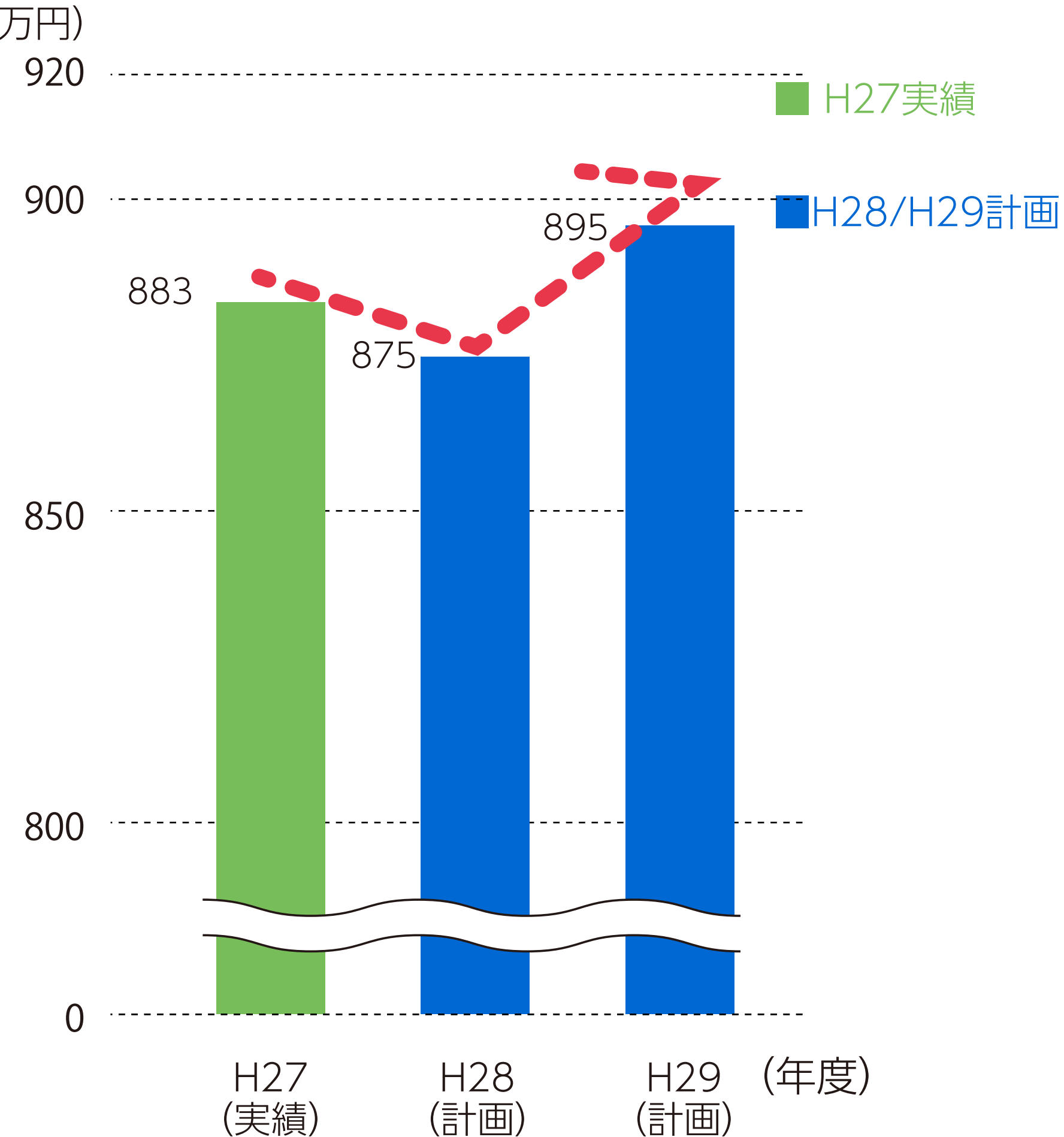
## ▶ 売上高

(百万円)



## ▶ セグメント営業利益

(百万円)



一部テナント入替に伴い、一時的に売上は落ち込む予想であるが、経費削減もあり、利益水準は確保する見通し。

## 【セグメント計数目標】

(単位:百万円)

	平成27年度 (実績)	平成28年度 (計画)	平成29年度 (計画)
売上高	2,324	2,245	2,270
セグメント営業利益	883	875	895

# ヘルスケア事業

## 戦略

# 健康長寿社会への貢献 をテーマに協業を推進

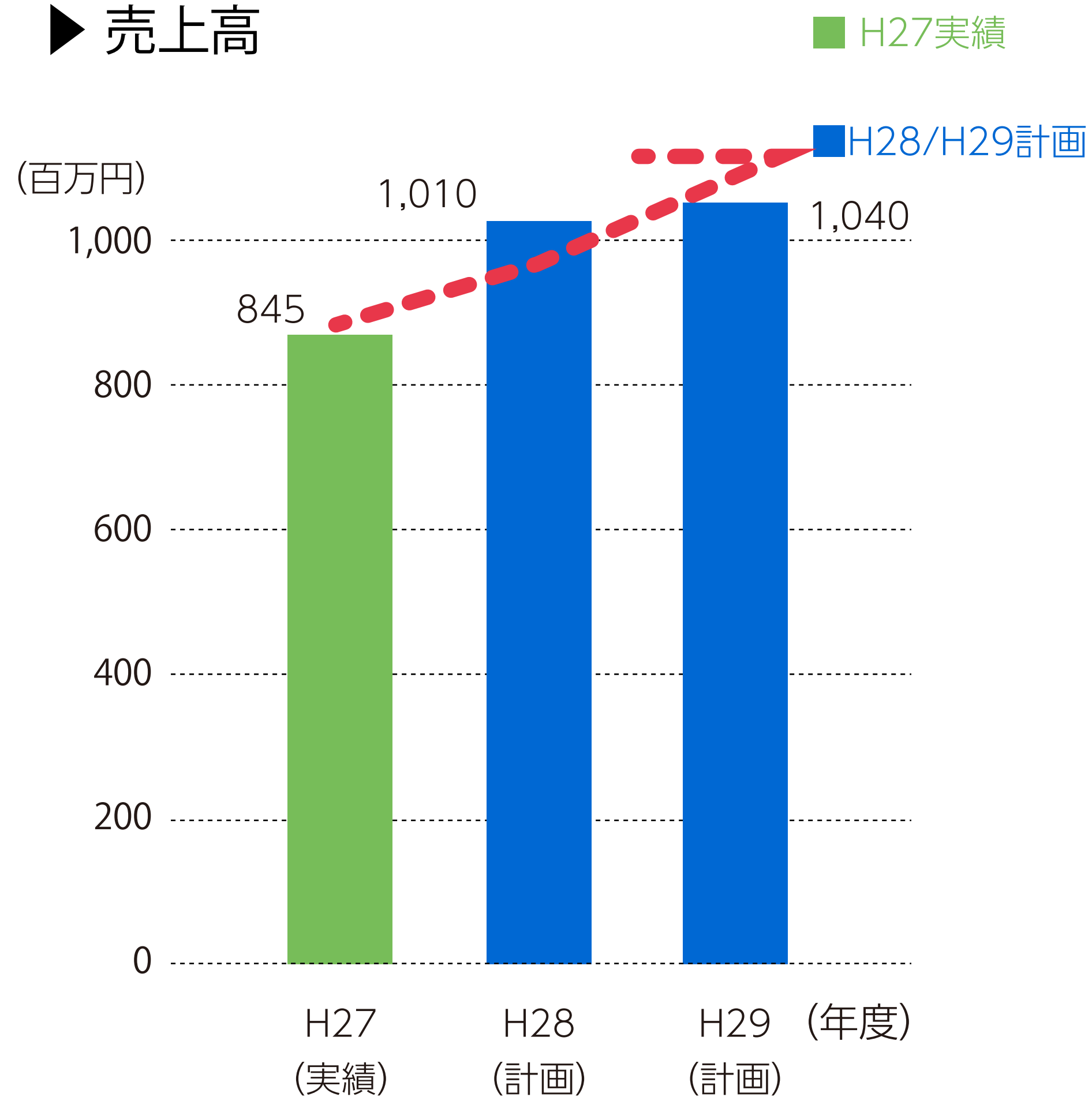
## 具体策

- ①良質な睡眠をキーとした「トータルヘルスケア」への取り組み
- ②国内グループ工場活用によるJapanクオリティの訴求
- ③アライアンスを含めた取引先との共通プラットフォームやビジョンの共有推進
- ④健康関連商品におけるネット販売等の直販ルート拡充
- ⑤製販一体、自社ブランド、独自技術製品（Eウール・バイオ麻等）を強みとして活かす

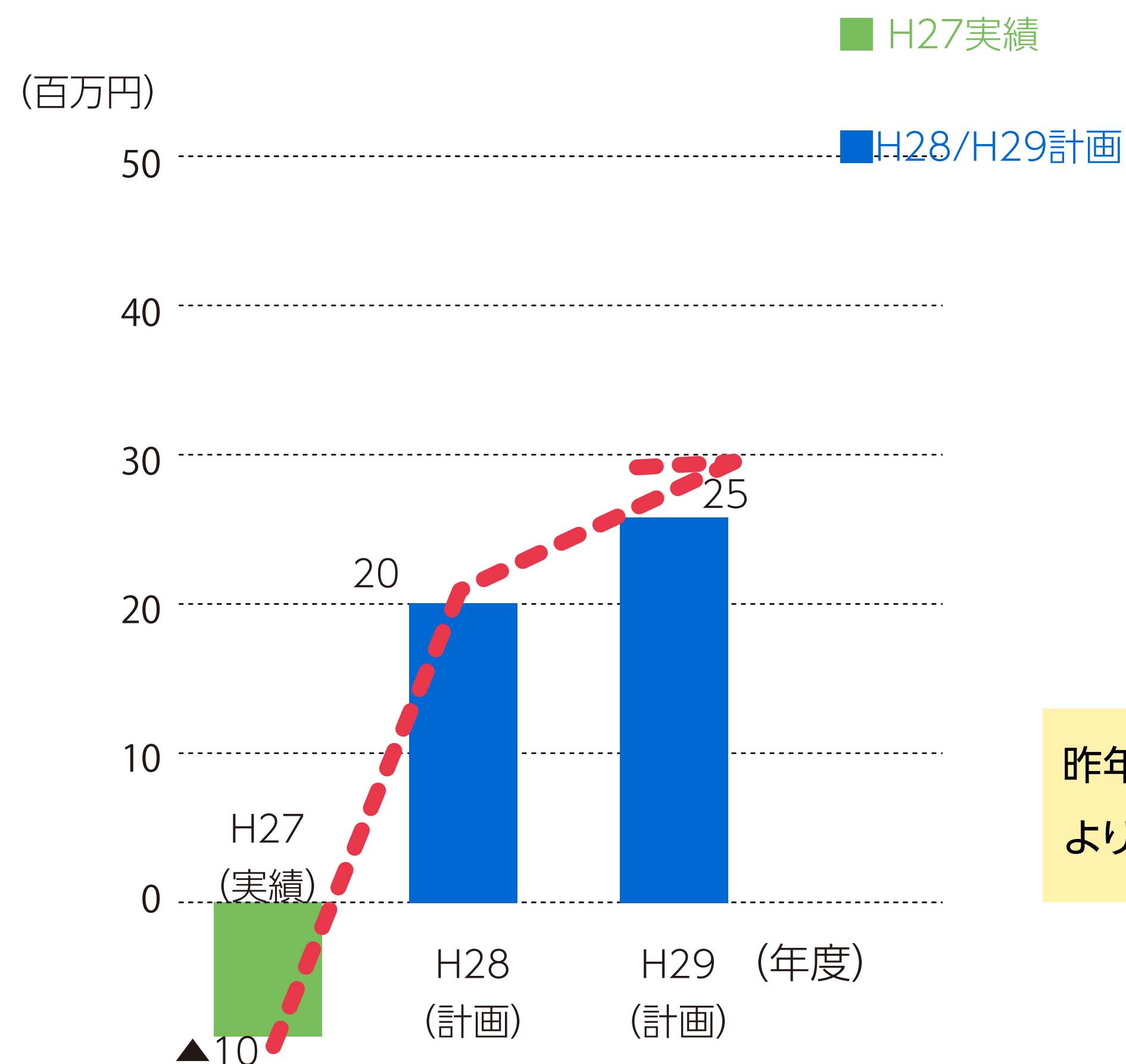


# ヘルスケア事業

## ▶ 売上高



## ▶ セグメント営業利益



昨年度シフトした人員の営業戦力化により、健康分野中心に伸長を見込む。

## 【セグメント計数目標】

(単位:百万円)

	平成27年度 (実績)	平成28年度 (計画)	平成29年度 (計画)
売上高	845	1,010	1,040
セグメント営業利益	▲10	20	25

# 繊維・アパレル事業

## 戦略

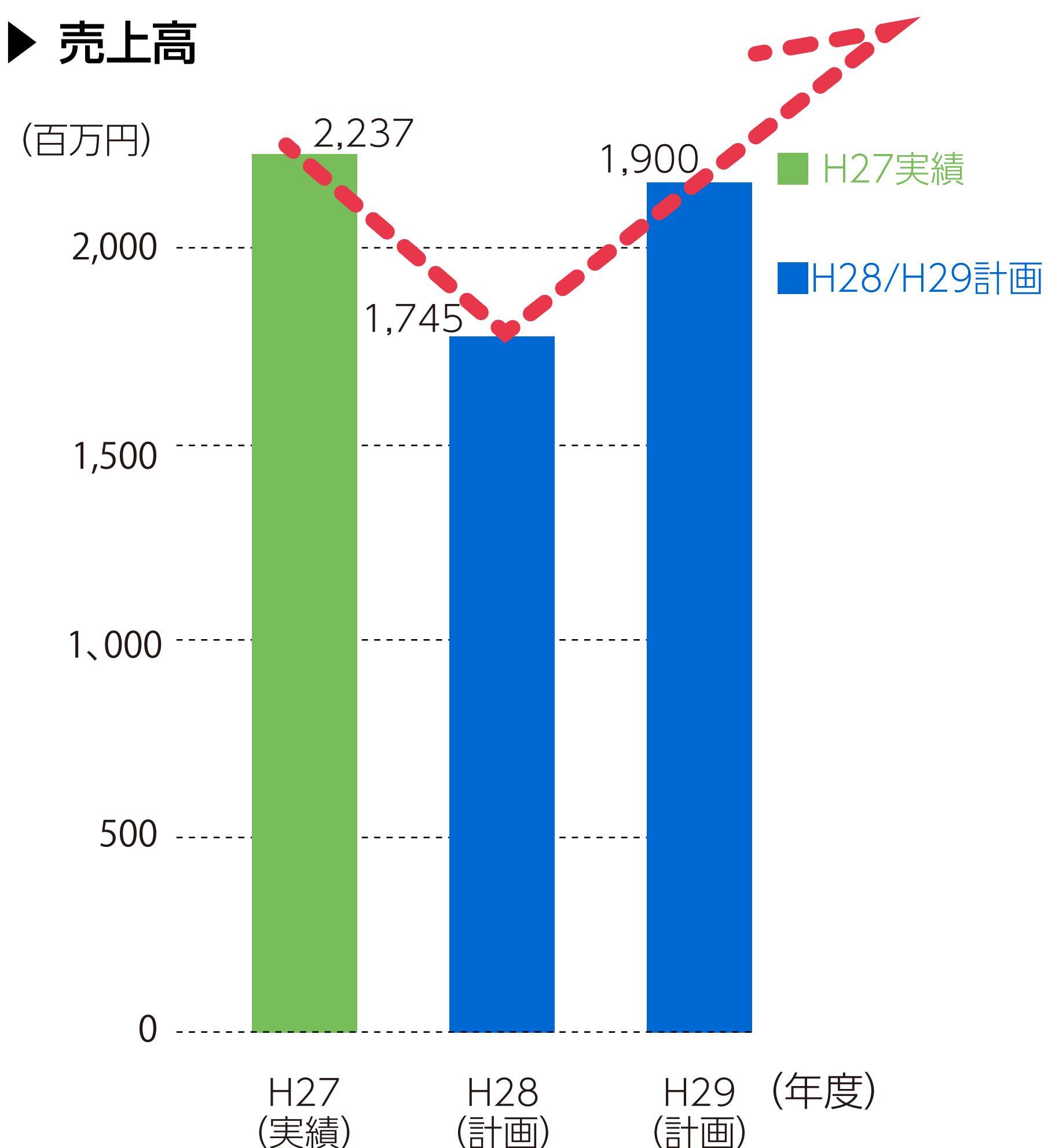
# 構造改革後の事業再構築により 成長軌道に乗る準備を進める

## 具体策

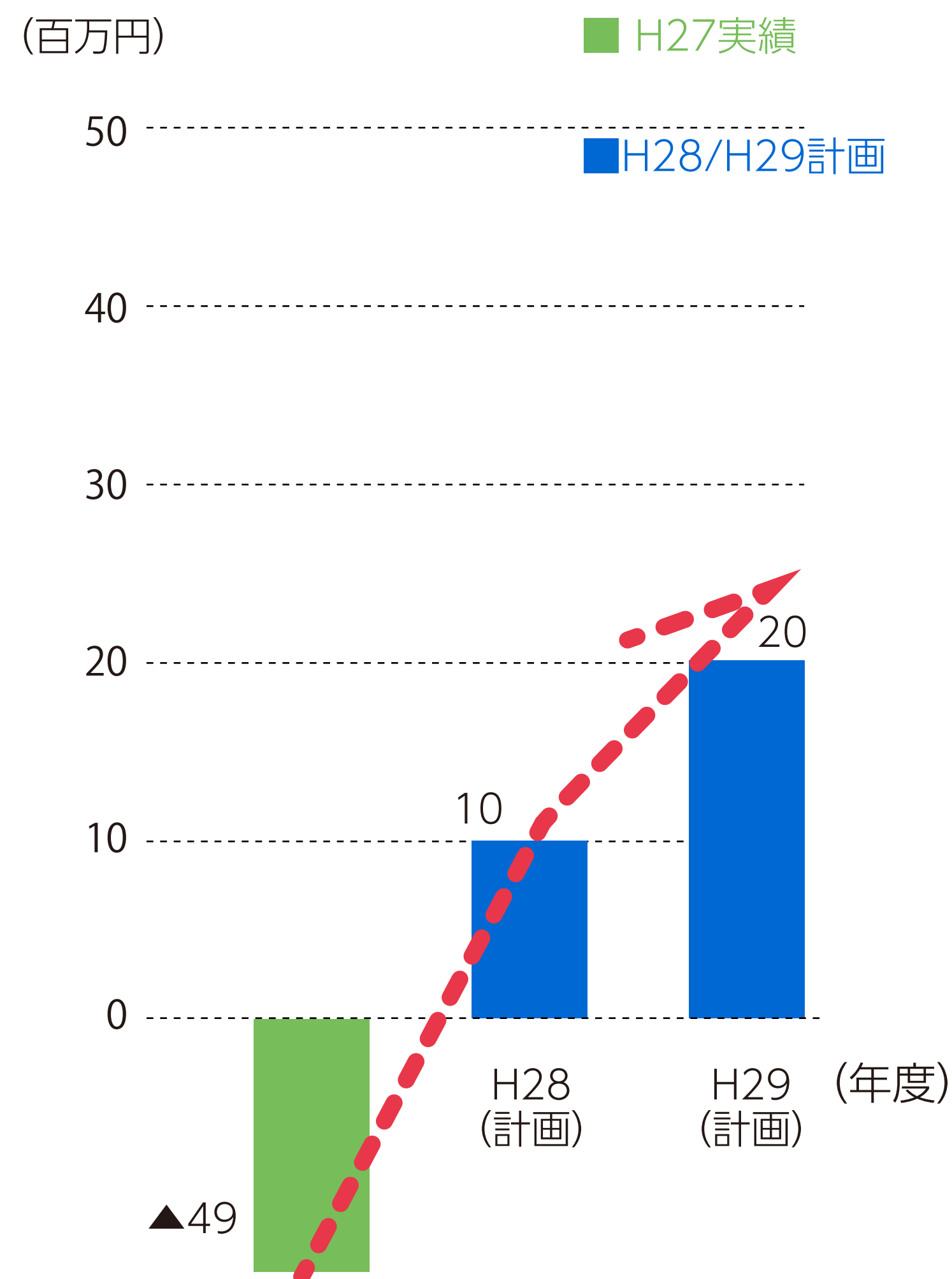
- ①守るべき事業は守る・・・祖業である毛織物関連の事業分野（官需制服・ニット等）
- ②エンドユーザーを意識した「売れる商品作り営業」への転換
- ③中国現地法人による中国内OEM事業の強化

# 繊維・アパレル事業

## ▶ 売上高



## ▶ セグメント営業利益



計画初年度は、撤退した紳士服販売事業とODM布帛事業のマイナスが通期を通して反映するため前年比落ち込むが、以後は伸長する見込み。

(単位:百万円)

## 【セグメント計数目標】

	平成27年度 (実績)	平成28年度 (計画)	平成29年度 (計画)
売上高	2,237	1,745	1,900
セグメント営業利益	※ ▲49	10	20

※期末に取引先向け債権▲50百万円を引当処理等したことによる。

# 財務戦略

## 戦略

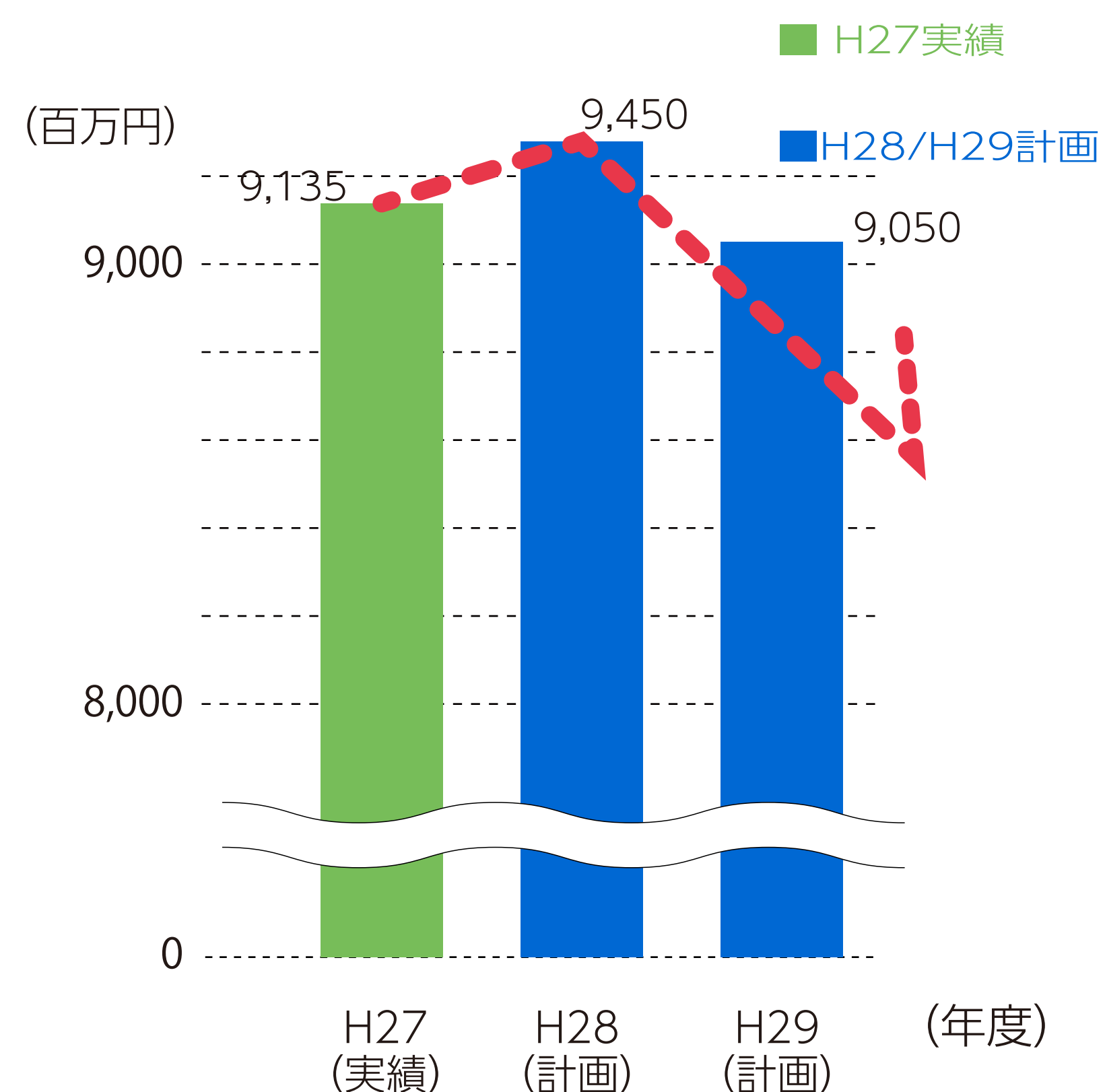
# 財務体質の強化

## 具体策

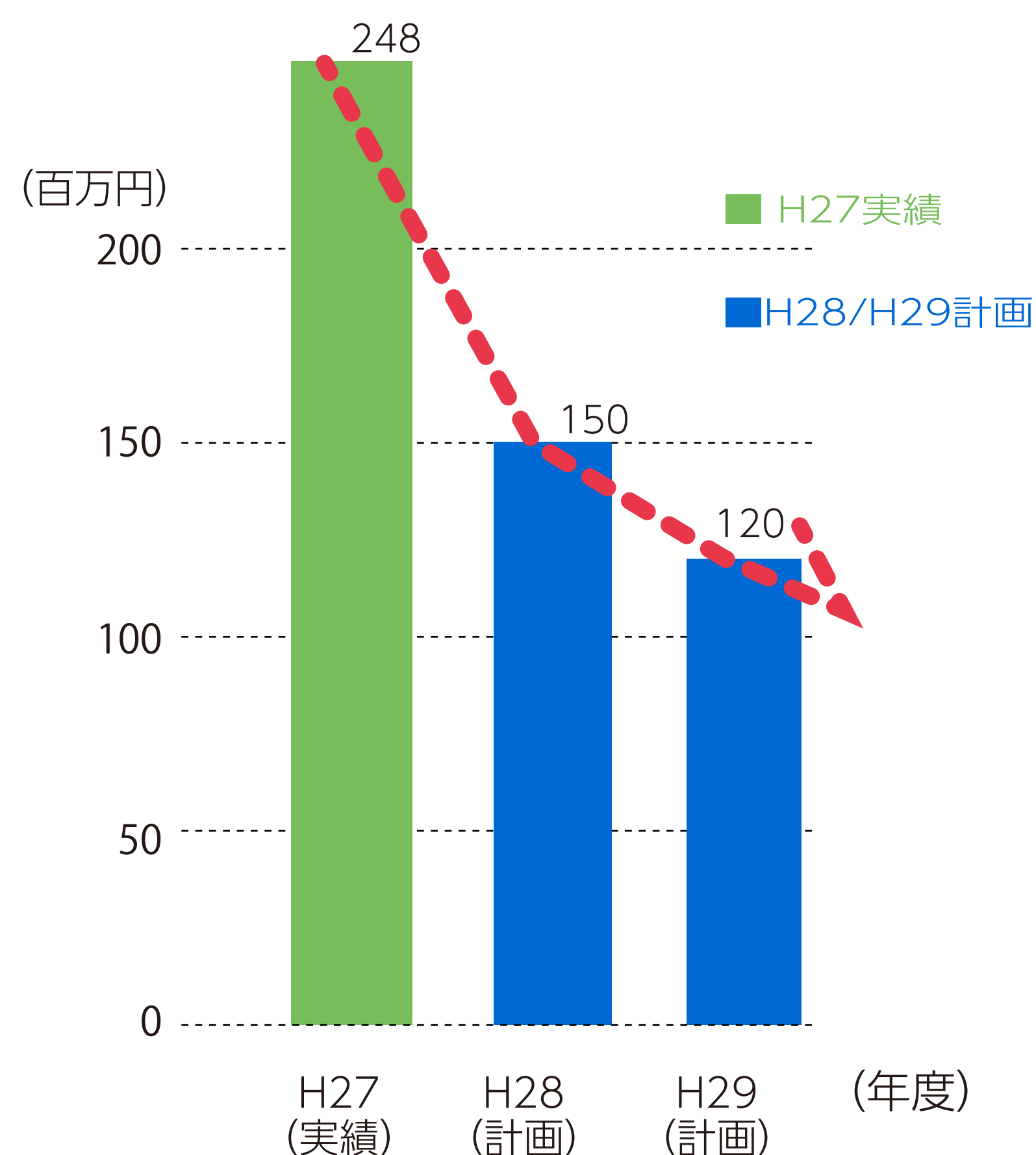
- ①長期安定資金の確保
- ②支払利息及び借入金返済負担の軽減
- ③有利子負債の削減
- ④財務目標達成に向けたコミットメント

# 財務戦略

## ▶ 有利子負債



## ▶ 支払利息



シンジケートローン組成により、支払利息軽減を見込む。

### 【計画】

(単位：百万円)

	平成27年度 (実績)	平成28年度 (計画)	平成29年度 (計画)
有利子負債	9,135	9,450	9,050
支払利息	248	150	120

※シンジケートローン組成に伴い、一時的に有利子負債が増加するが、その後は圧縮を進める。



# 経費の継続的抑制

## 戦略

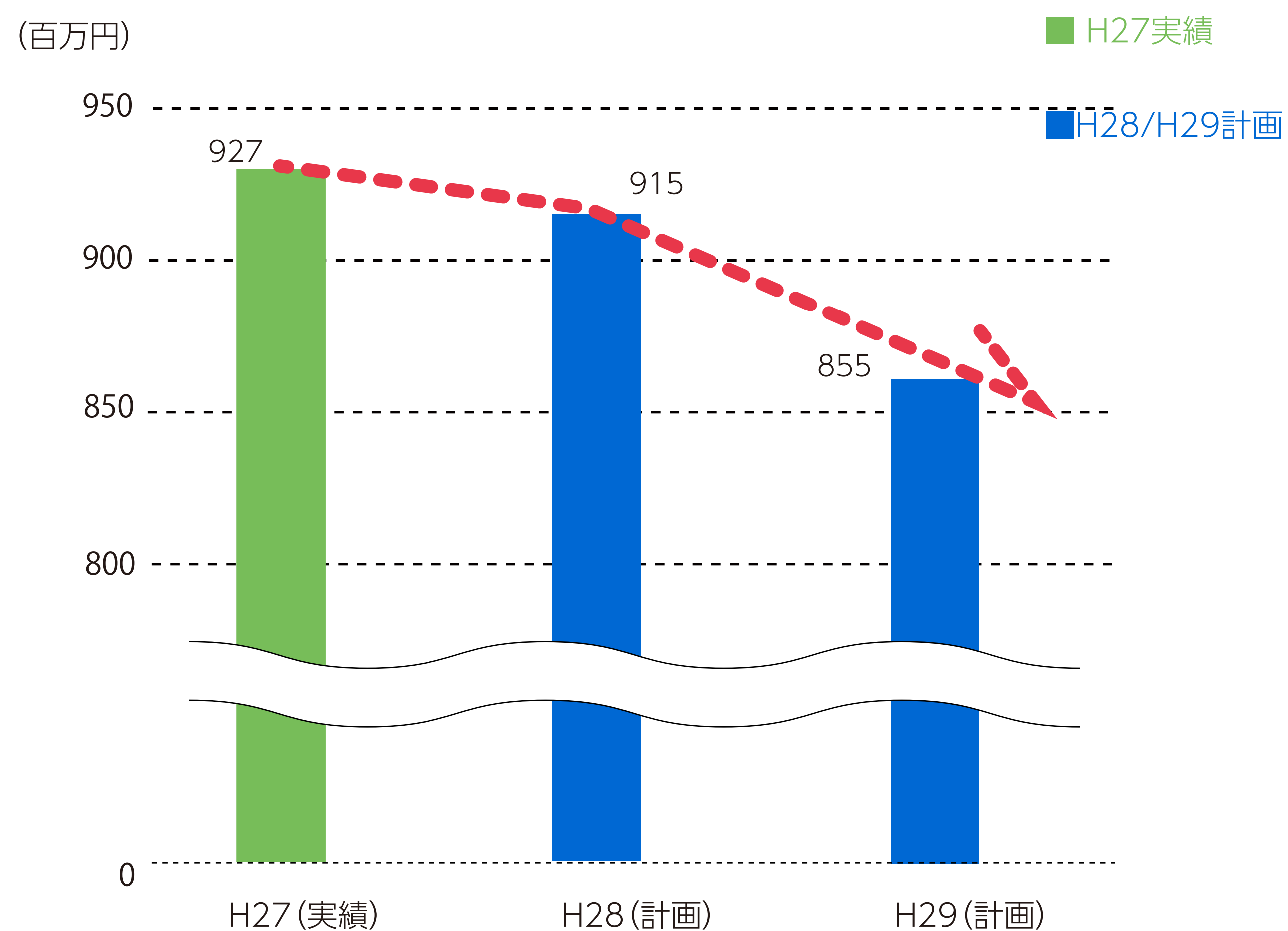
# 無理無駄を排除し、 効率的かつ効果的に抑制運営

## 具体策

- ①本部経費の見直し
- ②本社規模に見合ったオフィスへの移転

# 経費の継続的抑制

## ▶ 販売管理費の推移



本社移転コストやシンジケートローン取組における当初費用等の一過性の要因で計画1年目は前年比微減となるが計画2年目には削減効果がフル寄与する見通し。

### 【計数計画】

(単位:百万円)

	平成27年度 (実績)	平成28年度 (計画)	平成29年度 (計画)
販売管理費	927	915	855

# コーポレートガバナンスコードに沿った経営推進

## 方針

- ▶ 株主を始めとするステークホルダーの立場を踏まえて、透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を行う
- ▶ 当社の持続的な成長と中長期的な企業価値向上のための自律的な対応の推進

## 主要行動プラン

- ▶ 監査等委員会設置会社への移行によるガバナンス強化
- ▶ スtockオプション制度の導入による株価向上へのインセンティブ強化
- ▶ 株主向け資料の英文化促進による外国人株主への情報充実



# 人材戦略

## HR※ミッションへの取り組み

- ▶ 当社事業活動を通じて、主体的に行動し組織を創り動かせる有為な人材を育成することで、社会に貢献する

※HR : Human Resources

## 組織力の発揮

- ▶ 若手人材や女性戦力の抜擢を進め、組織力を高める

## 経営人材の育成

- ▶ 中長期テーマとして次世代を担う経営人材の育成に注力する



# 商号変更

## 商号変更

平成28年6月24日開催の第196回定時株主総会での決議を条件に、平成28年9月1日付で商号変更を行う考えです。また、商号変更を機に、グループシンボルを改定し、グループ一体となって未来へ向かって飛躍してまいります。

## 商号変更の考え方

当社創立120周年を節目として、非繊維関連事業が過半となっている現在の事業実態を踏まえてカタカナ表記とすることとし、名称としては長年当社の呼称として定着しているダイトウボウを新商号とするものであります。

# ダイトウボウ株式会社

(英文名:Daitobo Co., Ltd.)

(平成28年9月1日実施予定)

# グループシンボルの制定

120周年を機に新商号とすることに伴い  
グループシンボルを新たに制定します。(平成28年9月1日実施予定)

## グループシンボル



※**グリーン**は、子会社新潟大東紡株式会社が所在する魚沼産コシヒカリの産地として有名な新潟県十日町市近郊の山間部の田園風景をイメージしました。

**ブルー**は、子会社大東紡エステート株式会社が所在する静岡県三島市近郊の日本名水100選の一つである柿田川の名水をイメージしています。

## グループシンボルのテーマ

# 発想力を活かし 無限大の可能性へ

\*末尾の「bo」を無限大のインフィニティをモチーフとしてロゴ化しました。企業の持続的発展を通じ、人々の豊かな生活に寄与する姿勢をシンボライズしたものです。

また「i」の文字を人に見立て、頂点の●は柔軟な発想力のアタマをイメージ、そんな人材の集合が当社グループの明日を創っていく、といった想いを込めました。

当社グループならではの「発想とヒト」を武器に企業価値を向上させていく様子をイメージしたものです。

# グループ企業の紹介

## 大東紡エステート株式会社

< ショッピングセンターの管理・運営 >  
〒411-0902 静岡県駿東郡清水町玉川61-2  
TEL 0559-81-8800



## 寧波杉京服飾有限公司

< 縫製 > < 持分法適用会社 >  
中華人民共和国  
浙江省寧波市鄞州区古林鎮鵝頸村  
杉杉路228  
TEL 0574-88323201



## 新潟大東紡株式会社

< 寝装品製造 >  
〒948-0123 新潟県十日町市下平新田133-1  
TEL 025-768-2996



## 上海大東紡織貿易有限公司

< 貿易 >  
中華人民共和国  
上海市長寧区仙霞路369号現代広場1号  
楼201号室  
TEL 021-62757733



MONGOLIA

BHUTAN

CHINA

JAPAN

★ 東京本社

# 主要施設 サントムーン柿田川の現況





本資料に記載されている内容、損益計画数値等は、  
本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものです。  
本資料が当社の将来の内容・業績を保証するものではありません



掲載の内容を無断転載・複写することを禁止します。